

災害時の救命・医療活動を支える ダンボール開発 神田産業株式会社

災害現場で活躍

近年各地で発生している集中豪雨や地震などの大規模災害。現場では初期救急医療体制が求められています。しかし閉鎖された治療空間の設置が困難で、患者のプライバシー確保や感染症患者の隔離に支障をきたしているのが現状です。須賀川市の神田産業(神田雅彦代表取締役)は、より多くの命を救うため、患者の搬送を必要としない災害・救急現場で使用できる「移動型ER(Emergency Room=救急救命室)」をダンボールで開発。熊本地震では災害支援物資として避難所で活用されました。



▲熊本地震の避難所で活用された移動型ER

災害への備えとして

移動型ERの開発は、東日本大震災と福島第一原発事故からの復興を大きな目的に、県の医療機器関連産業の集積を促進し、雇用の確保を目指したもの。県内企業と福島県立医科大学ほか各大学と共に開発しました。軽量で組み立てには専門知識も不要。道具は一切必要としません。組み立ては大人3人程度で約十五分。防水加工が施され除菌も可能です。緊急性が求められる医療現場ですぐに設置でき、即座に対応できる環境を提供できます。活用はERだけでなく、感染症対策ユニットなどとしても可能。今後起こるかわからぬ災害への備えとして、広く活用が期待されています。

海外からも注目

ダンボールの特性を活かした創造性と技術力は高く評価され、メティカルクリエーションふくしま2016大賞において技術奨励賞を受賞し、第2回ふくしま産業賞で特別賞を受賞。災害における避難所支援物資等の供給協力に関する協定を、福島県、須賀川市、郡山市、天栄村と結んでいます。また海外からも注目を集め、問い合わせが寄せられています。

ものづくりへの挑戦

ハニリアルボード™を使い、様々なものづくりにも挑戦。テーブルなど住空間を演出するツールにも取り組んでいます。軽いため移動が容易で、環境に合わせて形を変えられ、使い終わったあとはリサイクルへ。生活シーンに応じて豊かで個性的な住空間を創造できます。

「熊本地震において、移動型ERは救急治療室としてだけでなく、お医者様がいたい時には授乳室や女性の更衣室としても使われました。今後災害時はもちろん、イベント会場での救護室などとしても使えるのではないかと考えています。テントよりも気密性が良くエアコンも設置できます。感染症では焼却処分することで二次感染を防ぐことが可能です。」と神田社長。須賀川から包装の未来が拓かれています。



▲代表取締役 神田 雅彦さん



▲横山第3工場内

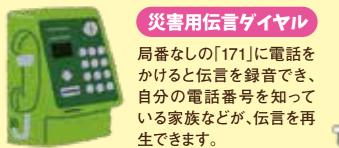


災害に対するご家庭での『備え』

災害に備え、ご家庭で取り組むべき主な対策をご紹介します。

災害時の連絡手段を確認しよう

別々の場所にいるときに災害が発生した場合でもお互いの安否を確認できるよう、日頃から安否確認の方法や集合場所などを、事前に話し合っておきましょう。災害時には、携帯電話の回線がつながりにくくなり、連絡がとれない場合もあります。その際には以下のサービスを利用しましょう。



災害用伝言ダイヤル

局番なしの「171」に電話をかけると伝言を録音でき、自分の電話番号を知っている家族などが、伝言を再生できます。



災害用伝言板

携帯電話やPHSからインターネットサービスを使用して文字情報を登録し、自分の電話番号を知っている家族などが、情報を閲覧できます。



※写真は横山第3工場

神田産業株式会社

本社・工場／〒962-0021 福島県須賀川市館取町22

TEL.0248-75-4165 http://www.kanda-package.com

横山第3工場／〒962-0041 福島県須賀川市横山町22-1

TEL.0248-94-2738

神田産業は明治三十年、材木商として開業。製材業、製箱業、建築業と少しずつ業務を変えて作られています。構造上、上下方向の圧力に特に強く、圧力や温度、湿度変化などによる反りに対しても強力な耐力を有しています。クラフト紙と糊が材料で、回収し紙の原料としてリサイクルも可能です。

ハニリアルの
材料として使用される
紙のハニカム構造体



▲強化段ボールを使用して作られたテーブルとイス(左)下駄箱(右)

ハニカム構造を活用

9/1金は
防災の日

